

(案)

地方独立行政法人市立吹田市民病院
第 2 期中期目標期間の業務実績に関する
見込み評価結果報告書

令和 3 年 1 0 月
吹田市

【目次】

はじめに	……1
第1項 全体評価	……2
第2項 大項目評価	……4
（Ⅰ）第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	
（ⅰ）見込評価結果	……5
（ⅱ）判断理由	……5
（ⅲ）項目別評価の集計結果	……6
（Ⅱ）第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	
（ⅰ）見込評価結果	……9
（ⅱ）判断理由	……9
（ⅲ）項目別評価の集計結果	……9
（Ⅲ）第4 財務内容の改善に関する事項	
（ⅰ）見込評価結果	……10
（ⅱ）判断理由	……10
（ⅲ）項目別評価の集計結果	……10
（Ⅳ）第5 その他業務運営に関する重要事項	
（ⅰ）見込評価結果	……11
（ⅱ）判断理由	……11
（ⅲ）項目別評価の集計結果	……11
第3項 小項目評価	
（Ⅰ）第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	
1 大阪府地域医療構想を踏まえて果たすべき役割	……12
2 市立病院として担うべき医療	
2－（1） 総論	……13
2－（2） 救急医療	
ア 二次救急医療機関としての円滑な救急応需体制の確保	……14
イ 初期救急医療における機能分担	……15
2－（3） 小児医療・周産期医療	
ア 小児医療	……16
イ 周産期医療	……17
2－（4） 災害医療	
ア 市の災害医療センターとしての役割	……18
イ 市及び地域の医療機関との連携体制	……19
2－（5） がん医療	
ア 大阪府がん診療拠点病院としてのがん診療体制の整備	……20
イ がん予防の取組	……21

2 - (6)	リハビリテーション医療	
	ア 回復期リハビリテーション病棟を活用した在宅復帰への支援	……22
	イ 高齢化の増加に伴う疾患の増加への対応	……23
3	安心安全で患者満足度の高い医療の提供	
3 - (1)	安心安全な医療の提供	
	ア 高齢者の増加に伴う疾患の増加への対応	……24
	イ 医療安全対策の徹底	……25
3 - (2)	チーム医療の充実	
	ア チーム医療の仕組みを活用した質の高い診療・ケアの提供	……26
	イ チーム医療の質の向上	……27
3 - (3)	コンプライアンスの徹底	
	ア 内部統制体制の整備	……28
	イ 職員の意識向上	……29
3 - (4)	患者サービスの向上	
	ア 患者の視点に立ったサービスの提供	……30
	イ 患者に寄り添ったサービスの提供	……31
	ウ 院内ボランティア活動への支援	……32
4	本市の地域包括ケアシステムの構築に貢献する地域完結型医療の体制づくり	
4 - (1)	地域の医療機関（かかりつけ医等）との機能分担・連携	
	ア 紹介・逆紹介の徹底	……33
	イ かかりつけ医定着に関する啓発	……34
4 - (2)	在宅医療の充実に向けた支援	
	ア 退院支援	……35
	イ 在宅療養者の急変時の受け入れ	……36
	ウ 地域医療ネットワークの連携強化	……37
5	健都における総合病院としての役割	
5 - (1)	国立循環器病研究センターとの機能分担・連携	
	ア 診療における連携	……38
	イ その他の連携	……39
	ウ 連携体制の周知	……40
5 - (2)	他の健都内事業者との連携	……40
5 - (3)	予防医療に関する取組	
	ア 各種健（検）診の実施	……41
	イ 人間ドックの実施	……42
	ウ 予防接種の実施	……42
	エ 疾病予防に関する講演会等の開催	……43
6	地域医療への貢献	
6 - (1)	地域の医療従事者の支援	
	ア 地域の診療所等への支援	……44
	イ 地域の医療水準の向上	……45

6 - (2) 福祉保健施策への協力・連携	
ア 障がい者（児）歯科診療の実施	……46
イ 小児科診療における協力・連携	……46
(Ⅱ) 第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	
1 PDCAサイクルによる目標管理の徹底	
ア 重点方針の共有及び目標達成に向けた取組	……47
イ 目標管理の徹底	……48
ウ 経営改善に向けた取組	……49
2 働きやすい職場環境の整備	
2 - (1) 医療職の人材確保・養成	
ア 働きやすい職場環境づくり	……50
イ 医療従事者の質の向上と研修・指導体制の充実	……51
2 - (2) 人事給与制度	
ア 職員給与の設定・運用	……52
イ 人事評価制度の運用	……53
(Ⅲ) 第4 財務内容の改善に関する事項	
1 経営基盤の確立	……54
2 収入の確保と費用の節減	
2 - (1) 収益の確保	
ア 収益の確保	……55
イ 未収金の発生予防・早期回収	……56
2 - (2) 費用の節減	
ア 人件費・経費の適正化	……57
イ 材料費の適正化	……58
(Ⅳ) 第5 その他業務運営に関する重要事項	
1 情報の提供	
ア 特色ある診療内容の周知	……59
イ 市民や患者に対する啓発・情報発信	……60
ウ 市民公開講座等の積極的な開催	……61
エ 法人の経営状況の公表	……62
2 環境に配慮した病院運営	
ア 環境負荷の低減・エネルギー消費量の抑制	……63
イ 環境配慮に対する職員意識の普及啓発	……64

はじめに

地方独立行政法人法第28条第1項第2号の規定に基づき、地方独立行政法人市立吹田市民病院の中期目標期間（平成30年4月1日から令和4年3月31日まで）の終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績について、総合的に評価を実施した。

評価に際しては、同法28条第4項の規定に基づき、地方独立行政法人市立吹田市民病院評価委員会の意見を踏まえ、評価を行った。

地方独立行政法人市立吹田市民病院評価委員会 委員名簿（令和3年7月1日現在）

	氏 名	団体及び役職等
委員長	高 杉 豊	大阪府保健医療財団 理事長
	御 前 治	吹田市医師会 会長
	飯 原 弘 二	国立循環器病研究センター 病院長
	土 岐 祐一郎	大阪大学医学部附属病院 病院長
	村 尾 孝 之	吹田市商工会議所 常議員
職務代理	足 立 泰 美	甲南大学 経済学部 教授
	清 水 和 也	日本公認会計士協会近畿会

第1項 全体評価

中期目標期間の全体評価の結果は、

『全体として中期目標を概ね達成すると見込まれる。』である。

【判断理由】

第2期中期目標期間は、平成30年度から令和3年度までの4年間である。中期目標を評価するにあたり、次項以降に後述する中期計画の達成度合いの評価を踏まえて、令和2年度までの3年間の業務実績の見込評価について、以下のとおり判断した。

第2「市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」について大きな評価のポイントとなるのは次の6点である。

- ① 救急医療については、専用病床を確保し、他の医療機関との機能分担の下24時間365日の受け入れを実施しているが、各年度を通して受け入れ率が低い状況にあり、中期計画に掲げた目標値を達成できていないことから、専用病床の稼働もこれからという状況が見て取れる。
- ② 災害医療については、平成30年度に発生した大阪府北部地震で市域医療機関の中心的役割として、透析を要する患者の受入とともに他の医療機関への紹介を実施するなど、有事の体制を取ることができている。
また、令和元年度から令和2年度にかけて新型コロナウイルス感染症が流行する中で、パンデミックに対応した医療体制をとり、専用病棟を設置して積極的に患者を受け入れながら、保健所及び市域の医療機関と連携して対応に当たっており、高く評価できる。
- ③ がん医療については、放射線治療専門医の設置や患者数・治療数とも中期計画に掲げた目標値を達成できた。一方で、中期目標に掲げたがん診療連携パスの推進については、各年度とも目標を達成できておらず、今後の課題といえる。
- ④ リハビリテーション医療については、平成30年度に回復期リハビリテーション病棟を開設し、令和元年度・令和2年度で新しい施設基準を取得したことが評価できる。しかしながら、回復期リハビリテーション病棟の利用率は低い状況にあるため、施設基準に見合うより積極的な病棟利用が求められる。
- ⑤ コンプライアンスの徹底については、令和元年度に職員が処分を受ける事案が複数件あったこと、受診者の個人情報を誤ってホームページ上に掲載したことは到底看過できない事由であり、厳しい評価をせざるを得ない。他方、個人情報の管理要領の見直しやe-ラーニングを含む研修など再発防止に積極的に取り組んでいることは評価できる。
- ⑥ 地域の医療機関との連携については、開業医を直接訪問するなどして、新型コロナウイルス感染症の影響下においても事業の拡充・推進を実現し、紹介数及び逆紹介数の増加につなげている。

また、国立循環器病研究センターとの連携では、協議を続けてお互いに照会ができる体制を整えたことも、地域の医療機関との連携・機能分担の面で評価できる。

第3「業務運営の改善及び効率化に関する事項」について

大きな評価のポイントとなるのは次の2点である。

- ① 経営改善に向けた取組については、計画の進捗や経営の状況を全職員が確認できるようにしており、会計研修や経営意識の醸成など、市民病院で働く全職員が目標達成及び経営改善に向けて動けるように周知を積極的に行った。
- ② 医療従事者の質の向上と研修・指導体制の充実については、資格取得や研修参加を支援し、研修医に対しては指導医がフィードバックを行える体制を作り、研修医部署を設置することで研修しやすい環境を整えた。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度現在、試行には至っていないが、検討部会を立ち上げて新たな人事評価制度の構築を進めた。

第4「財務内容の改善に関する事項」について

大きな評価のポイントとなるのは次の2点である。

- ① 収益の確保については、平成30年度は移転に伴って低い評価となっているが、結果としてはすべての年度で1日あたり患者数の数値目標を達成できなかった。他方、診療単価は改定に迅速に対応し、さらに新たな施設基準の取得を行ったことで年度ごとに増額となり、目標を大幅に超えたことは評価できる。
- ② 費用の節減については、人件費面で影響する時間外労働時間の減少に取り組んできた。一方で、移転や新型コロナウイルス感染症の影響もあるかもしれないが、消耗品の過剰発注の抑制やコスト削減の取組を実施しているものの、経費・人件費・材料費とも中期計画に掲げた目標値を下回ることができなかったため、経費の適正化は今後も課題となる。

第5「その他業務運営に関する重要事項」について

大きな評価のポイントは次のとおりである。

市民や患者に対する啓発・情報発信については、関連指標となるホームページの閲覧数が高い点を評価することができる。しかしながら、令和2年度は閲覧数が高いながらも大きく落ち込んでいるのは懸念材料と言える。

ホームページ以外にも、広報誌の発行や市民講座の開催など、新型コロナウイルス感染症の影響があつて困難なものもあつたが、概ね市民への啓発を欠くことなく行っている点は評価できる。

第2項 大項目別評価

【評価基準】

- S……年度計画を達成し、中期計画の実現に向けて特筆すべき進捗状況にある。
 (全ての小項目が 3～5 かつ市長が特に認める場合)
- A……年度計画を達成し、中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる。
 (全ての小項目が 3～5)
- B……年度計画を実施し、中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる。
 (3～5 の小項目の割合が概ね9割以上)
- C……年度計画を実施したが、中期計画の実現のためにはやや遅れている。
 (3～5 の小項目の割合が概ね9割未満)
- D……年度計画を実施しているが、中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある。(市長が特に認める場合)

【評価結果一覧】

大項目	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	見込 評価 結果	評価 結果
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	B	B	B	—	B	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	A	A	A	—	A	
第4 財務内容の改善に関する事項	C	A	A	—	A	
第5 その他業務運営に関する重要事項	A	A	A	—	A	

※大項目の第1は「年度計画の期間」に関する項目であり、評価対象でないため、上記の大項目評価一覧には記載していません。

(I) 第2

(i) 評価結果

B 年度計画を実施し、中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる。

(ii) 判断理由

中期目標期間中の各年度の評価は、平成30年度から令和2年度までともに「B年度計画を実施し、中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる。」という結果だった。また、小項目評価における評価3以上の割合は、平成30年度は95.2%、令和元年度は90.2%、令和2年度は95.0%だったことから、市立吹田市民病院が果たすべき役割として概ね取組が行われたことがわかる。

しかし、重点項目である救急医療においては、目標指標の「時間外救急車搬送受入率」及び「救急車搬送受入件数」が中期計画目標値を下回り、各年度の評価も低評価となっている。その他評価の詳細は、前項の全体評価にて列挙したとおりである。

これらを総合的に評価した結果、「B 年度計画を実施し、中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる。」とする。

(iii) 項目別評価の集計結果

【評価基準】

5……年度計画を大幅に上回って実施している。

4……年度計画を上回って実施している。

3……年度計画を順調に実施している。

2……年度計画を十分に実施できていない。

1……年度計画を大幅に下回っている。

丸囲み数字は、当該年度において重点項目と位置付けられていた事項。

※法人の業務実績については、次項の項目別評価にて後述する。

【評価結果一覧】

		小項目評価				
		平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	見込 評価
1 大阪府地域医療構想を踏まえて果たすべき役割		—	—	—	—	—
2 市立病院として担うべき医療	(1) 総論	③	③	③	—	3
	(2) 救急医療 ア 二次救急医療機関としての円滑な救急応需体制の確保	②	②	②	—	2
	イ 初期救急医療における機能分担・連携	3	3	3	—	3
	(3) 小児医療、周産期医療 ア 小児医療	3	3	3	—	3
	イ 周産期医療	3	3	3	—	3
	(4) 災害医療 ア 市の災害医療センターとしての役割	3	3	3	—	3
	イ 市及び地域の医療機関との連携体制	3	3	4	—	4
	(5) がん医療 ア 大阪府がん診療拠点病院としてのがん診療体制の整備	3	4	3	—	3
	イ がん予防医療の取組	3	3	3	—	3
	(6) リハビリテーション医療 ア 回復期リハビリテーション病棟を活用した在宅復帰への支援	③	3	3	—	3
イ 高齢化の増加に伴う疾患の増加への対応	③	3	3	—	3	

		小項目評価				
		平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	見込 評価
3 安心安全で患者満足度の高い医療の提供	(1) 安心安全な医療の提供 ア 医療の安全管理体制の確保	3	3	3	—	3
	イ 医療安全対策の徹底	3	3	3	—	3
	(2) チーム医療の充実 ア チーム医療の仕組みを活用した質の高い診療・ケアの提供	3	3	3	—	3
	イ チーム医療の質の向上	3	3	3	—	3
	(3) コンプライアンスの徹底 ア 内部統制体制の整備	3	2	3	—	3
	イ 職員の意識向上	3	2	3	—	3
	(4) 患者サービスの向上 ア 患者の視点に立ったサービスの提供	3	3	3	—	3
	イ 患者に寄り添ったサービスの提供	3	3	3	—	3
	ウ 院内ボランティア活動への支援	3	3	3	—	3
4 本市の地域包括ケアシステムの構築に貢献する地域完結型医療の体制づくり	(1) 地域の医療機関（かかりつけ医等）との機能分担・連携 ア 紹介・逆紹介の徹底	③	④	③	—	3
	イ かかりつけ医定着に関する啓発	3	3	3	—	3
	(2) 在宅医療の充実に向けた支援 ア 退院支援	3	3	3	—	3
	イ 在宅療養者の急変時の受入れ	3	3	3	—	3
	ウ 地域医療ネットワークの連携強化	3	3	3	—	3

		小項目評価				
		平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	見込 評価
5 健都における 総合病院とし ての役割	(1) 国立循環器病研究センターとの 機能分担・連携 ア 診療における連携	③	4	4	—	4
	イ その他の連携	3	3	3	—	3
	ウ 連携体制の周知	3	3	3	—	3
	(2) 他の健都内事業者等との連携	3	3	3	—	3
	(3) 予防医療に関する取組 ア 各種検（健）診の実施	3	3	3	—	3
	イ 人間ドックの実施	3	4	3	—	3
	ウ 予防接種の実施	3	3	3	—	3
	エ 疾病予防に関する講演会等の開 催	3	3	3	—	3
6 地域医療への 貢献	(1) 地域医療従事者への支援 ア 地域の診療所等への支援	3	3	3	—	3
	イ 地域の医療水準の向上	3	3	3	—	3
	(2) 福祉保健施策への協力・連携 ア 障がい者（児）歯科診療の実施	3	3	3	—	3
	イ 小児科診療における協力・連携	3	3	3	—	3
大項目評価		B	B	B	—	B

(II) 第3

(i) 評価結果

A 年度計画を達成し、中期計画の目標に向けて計画どおりに進んでいる

(ii) 判断理由

中期目標期間中の各年度の評価は、平成30年度から令和2年度までともに「A 年度計画を達成し、中期計画の目標に向けて計画通りに進んでいる」という結果だった。

また、小項目評価における評価3以上の割合は、平成30年度から令和2年度までともに100%だったことから、業務改善の取組が欠かさず行われたことがわかる。

特に人事給与制度においては、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により医療がひっ迫した状況もあり、運用までは困難であったが、職員の意欲向上につながるような人事評価制度の導入に向け、業者選定や職種ごとの検討部会の立ち上げなど、取組を前進させている。その他評価の詳細は、前項の全体評価にて列挙したとおりである。

これらを総合的に評価した結果、「A 年度計画を達成し、中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる。」とする。

(iii) 小項目評価の集計結果

		小項目評価				
		平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	見込 評価
1 P D C A サ イクルによ る目標管理 の徹底	ア 重点方針の共有及び目標 達成に向けた取組	3	3	3	—	3
	イ 目標管理の徹底	3	3	3	—	3
	ウ 経営改善に向けた取組	3	3	③	—	3
2 働きやすい 職場環境の 整備	(1) 医療職の人材確保・養成 ア 働きやすい職場環境づくり	3	3	3	—	3
	イ 医療従事者の質の向上と 研修・指導体制の充実	3	3	③	—	3
	(2) 人事給与制度 ア 職員給与の設定・運用	3	3	3	—	3
	イ 人事評価制度の運用	3	3	③	—	3
大項目評価		A	A	A	—	A

※法人の業務実績については、次項の項目別評価にて後述する。

(Ⅲ) 第4

(i) 評価結果

A 年度計画を達成し、中期計画の目標に向けて計画どおりに進んでいる

(ii) 判断理由

中期目標期間中の各年度の評価は、平成30年度は「C 年度計画を実施したが、中期計画の実現のためにはやや遅れている」で、令和元年度と令和2年度はともに「A 年度計画を達成し、中期計画の目標に向けて計画通りに進んでいる」という結果だった。

また、小項目評価における評価3以上の割合は、平成30年度は16.7%で、令和元年度と令和2年度はともに100%だったことから、収支の改善に対する取組が行われたことがわかる。

平成30年度は病院の移転の時期だったこともあり、収益の確保や費用の節減は難しいところがあったが、令和元年度以降は安定した収支を実現し、指標となる経常収支比率及び医業収支比率が、令和2年度に中期目標数値を超えた。その他評価の詳細は、前項の全体評価にて列挙したとおりである。

これらを総合的に評価した結果、「A 年度計画を達成し、中期計画の目標に向けて計画どおりに進んでいる」とする。

(iii) 小項目評価の集計結果

		小項目評価				
		平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	見込 評価
1	経営基盤の確立	②	③	③	—	3
2 収益の確保 と費用の節 減	(1) 収益の確保 ア 収益の確保	②	③	④	—	3
	イ 未収金の発生予防・早期回収	3	3	3	—	3
	(2) 費用の節減 ア 人件費・経費の適正化	2	3	③	—	3
	イ 材料費の適正化	2	3	3	—	3
大項目評価		C	A	A	—	A

※法人の業務実績については、次項の項目別評価にて後述する。

(IV) 第5

(i) 評価結果

A 年度計画を達成し、中期計画の目標に向けて計画どおりに進んでいる

(ii) 判断理由

中期目標期間中の各年度の評価は、平成30年度から令和2年度までともに、「A年度計画を達成し、中期計画の実現に向けて計画通り進んでいる」という結果だった。

また、小項目評価における評価3以上の割合も平成30年度から令和2年度までともに100%だったことから、すべての取組が評価基準を満たして行われたことがわかる。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響もあって広報誌の発行回数やホームページのアクセス数が前年度を下回る結果となったが、Webシステムを用いた出張講座や、職員の検索しやすいホームページ作成意識の醸成など、より良い情報発信の方法を模索し、実施できていた。その他評価の詳細は、前項の全体評価にて挙げたとおりである。

これらを総合的に評価した結果、「A 年度計画を達成し、中期計画の実現に向けて計画通り進んでいる」とする。

(iii) 小項目評価の集計結果

	小項目評価				
	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	見込 評価
1 情報の提供 ア 特色ある診療内容の周知	③	③	③	—	3
イ 市民や患者に対する啓発・情報発信	④	④	③	—	4
ウ 市民公開講座等の積極的な開催	④	④	3	—	4
エ 法人の経営状況の公表	3	3	3	—	3
2 環境に配慮した病院運営 ア 環境負荷の軽減・エネルギー消費量の抑制	3	3	3	—	3
イ 環境配慮に対する職員意識の普及啓発	3	3	3	—	3
大項目評価	A	A	A	—	A

※法人の業務実績については、次項の項目別評価にて後述する。

3 項目別評価

(I) 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 大阪府地域医療構想を踏まえて果たすべき役割

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	—	—	—	—	—

中期目標

高齢化の進展などの多様な医療需要に対応し、患者の状態像に応じて必要な医療が提供できるよう、公・民の適切な役割の下、病院間の機能分担・連携を推進すること。
これにあたっては、大阪府地域医療構想に係る豊能病床機能懇話会などでの協議の内容を踏まえて、将来の豊能医療圏の医療需要に対して不足が見込まれている医療機能のニーズへの対応を検討すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・地域の医療機関との機能分担・連携を図りつつ、地域の診療所等では対応できない入院・手術を中心とした医療を提供するとともに、総合病院として急性期医療の提供を行うことにより、より多様な医療需要に対応した。また、大阪府地域医療構想において不足している回復期病床については、現病院への移転に伴い、一般病床の一部を回復期リハビリテーション病床（45床）に転換しており、引き続き急性期から回復期までの患者の状態像に応じた手厚いリハビリテーションを行った。

・在宅医療の充実に向けた支援として、在宅医療に係る関係機関との円滑な連携による退院支援を行った。また、在宅療養者の病状が急変した際の受入れを行うなどの在宅医療の後方支援を積極的に行うとともに、医療・介護・福祉のサービスが切れ目なく提供されるよう、地域医療ネットワークの連携の強化を図った。

2 市立病院として担うべき医療

2- (1) 総論

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

市立病院として、地域で必要とされる医療を切れ目なく提供できるよう、地域の医療機関との機能分担・連携を推進すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・がん疾患については、外来化学療法及び放射線治療の実施など、集学的治療を推進し効果的な治療に努めた。また、コロナ禍においても可能な範囲で内視鏡センターを活用し、がん疾患のほか呼吸器疾患についても質の高い治療を行うことができた。整形外科系疾患においては、リハビリテーション科で効果的なリハビリテーションを行った。

・大阪府医療計画で推進が求められている5疾病（がん、脳血管疾患、心血管疾患、糖尿病、精神疾患）、4事業（救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療）については、公立病院として必要とされる医療サービスを他の医療機関との機能分担・連携の下に適切に実施するとともに、質の高い医療の提供に努めた。在宅医療については、在宅療養者の病状が急変した際には、地域のかかりつけ医と患者支援センターの病床管理担当の看護師が連携して円滑な受入れを行った。また、新型コロナウイルス感染症への対応として、市及び関係機関と連携・協力し、感染流行早期の時点から帰国者・接触者外来を設置するとともに年度を通して専用病棟を設け、入院患者の受入を行うなど、市立病院として役割を果たした。

・地域医療支援病院については、コロナ禍にあっても可能な範囲で開業医を訪問することで連携を密にとり、紹介率の向上に努めた。また、逆紹介においては長期間通院している再診患者への積極的な逆紹介に努めたことで承認要件を満たし、承認された。

2 - (2) 救急医療

ア 二次救急医療機関としての円滑な救急応需体制の確保

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	2	2	2	—	2

中期目標

大阪府が認定する二次救急医療機関として、地域の医療機関との機能分担・連携の下、24時間365日の受け入れが行えるよう、円滑な救急応需体制を確保すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

（ア）二次救急医療機関として、地域の医療機関及び三次救急医療機関との連携・役割分担の下、24時間365日体制の救急医療の提供を確保し、引き続き地域における救急医療の中心的役割を果たせるよう努めた。

- ・受け入れできなかった症例は担当副院長へ報告し、救急部運営委員会において原因の検討を行ない、救急患者を断らないよう努めた。

- ・新型コロナウイルス感染症が広がる状況の中、適切なゾーニングや感染管理体制の整備を行ったことにより新型コロナウイルス感染症患者やその疑い患者の診療対応と並行して24時間365日の医療体制を引き続き確保し、地域の医療機関及び三次救急医療機関との連携・役割分担の下、地域における救急医療提供の中心的役割を果たせるよう努めた。(R2)

（イ）二次救急患者の受け入れを目的とした救急専用病床（8床）について、処置後の救急患者を救急専用病床から一般病床に円滑に移せるように、日々のベッドコントロールにより救急患者の受け入れを行える体制を確保した。

（ウ）時間内の救急搬送患者対応について、救急科部長を中心に救急隊からの受入要請に対し、迅速に受け入れ可否の判断をするとともに適切な診療科で対応するなどのスムーズな受け入れ体制で運用した。

- ・救急科を新病院から新たに設置することにより初期診療体制を整え、依頼から受け入れまでスムーズな運用を構築した。(H30)

【目標指標】

項目	中期計画 目標値	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
時間外救急車搬送 受入率	90.0%	83.4%	77.5%	68.8%	—
救急搬送受入件数	4,320 件	3,620 件	3,854 件	2,917 件	—
（時間内）	1,440 件	1,216 件	1,376 件	1,138 件	—
（時間外）	2,880 件	2,404 件	2,478 件	1,779 件	—
救急専用病床稼働率	90.0%	—	43.0%	29.0%	—

イ 初期救急医療における機能分担

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

初期救急医療については、地域の医療環境を踏まえた機能分担・連携を推進すること。
また、市民への啓発等によりかかりつけ医定着の促進を図ること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・地域の医療機関との連携推進やかかりつけ医定着の促進について、ホームページや広報誌、患者への啓発用チラシの配布等、初期救急医療において地域の医療機関との機能分担を図った。

2 - (3) 小児医療・周産期医療

ア 小児医療

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

小児救急医療について、豊能広域こども急病センターや地域の診療所と連携しながら、二次救急医療機関としての役割を果たすこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第 2 期中期計画）

法人 実績	・二次医療圏内の小児救急診療について、豊能広域こども急病センターの後送病院として週 4 回の二次救急輪番を努めるとともに、高い救急搬送応需率を維持し、地域に必要とされる役割を果たした。
----------	--

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
小児科患者数（入院）	6,842 人	7,767 人	4,345 人	—
小児科患者数（外来）	12,835 人	11,606 人	9,164 人	—
小児救急搬送患者数	623 人	625 人	273 人	—
うち小児救急 入院患者数	517 人	548 人	188 人	—

イ 周産期医療

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

大阪府周産期緊急医療体制の参加病院として、二次救急搬送の受入体制を確保するとともに、高度機能が必要なハイリスク分娩等は、地域の周産期母子医療センターと連携を図ること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・陣痛から分娩後まで、部屋移動による負担が少なく安全なLDR（特別室）の活用に加え、多職種から専門的なサポートを受けることが出来るマザークラス（母親教室）や、助産師外来、ははとこ健診、また、新たにアロマセラピーを導入し、妊娠から産後まで幅広い支援を行い、安心してお産できる環境を継続して提供した。
- ・糖尿病等の合併症をもった妊婦、中程度のリスクのある分娩や開業医では対応の難しい妊娠管理や分娩管理が必要な妊婦の受入れ体制を維持した。
- ・分娩においてハイリスクを有する妊婦については、検診の段階で高次医療対応が可能な周産期母子医療センターへ紹介するなどし、安心安全な周産期医療体制を確保した。

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
分娩件数	143 件	309 件	293 件	—

2 - (4) 災害医療

ア 市の災害医療センターとしての役割

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

吹田市地域防災計画に基づき、市の災害医療センターとして大規模な災害や事故の発生に備え、災害時の医療体制や医薬品等の確保体制を整備すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

（ア）平成 30 年 6 月に大阪府北部地震が発生した際に、災害対策本部を速やかに設置し、院内の状況把握と情報共有を行うなど、昨年までの災害対策訓練を生かし、大きな混乱が生じることなく外来診療等について対応することができた。（H30）

- ・移転後初となる災害を想定した実地訓練として、10 月に防火訓練、2 月に大規模災害訓練を実施した。また、9 月に吹田市地域防災総合訓練、12 月に豊能地区医療圏の合同訓練に参加した。（R1）

- ・災害を想定した実地訓練として、10 月に防火訓練を実施した。大規模災害訓練は新型コロナウイルス感染症の影響により、実地訓練を縮小して災害時の指揮・統制、情報伝達の訓練と災害対策本部の設営訓練を実施した。院外での訓練、研修参加については、2 月に ZOOM によるオンラインで行われた豊能二次医療圏大規模災害時医療連携強化プロジェクト研修に参加した。

- ・災害対策委員会において、災害発生時の初動対応の迅速化、新型コロナウイルス感染症疑いのある被災者の動線やトリアージなどを協議した。（R2）

（イ）令和元年度に実施した防火訓練、巨大地震を想定した大規模災害訓練結果に基づき、災害対策委員会にて防災マニュアルを改訂した。

- ・防災マニュアルの改訂に併せて、部署別行動計画の追加などを内容とする事業継続計画（BCP）の改訂を行った。

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
災害訓練回数	0 回	2 回	2 回	—
災害訓練参加人数	0 人	173 人	122 人	—
災害医療院外研修参加回数	2 回	2 回	1 回	—

イ 市及び地域の医療機関との連携体制

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	4	—	4

中期目標

災害時においては、地域の医療機関と連携し、適切な医療を提供するとともに新たな感染症の発生等、健康危機事象が発生したときは、市の担当部署等と連携し、市域の医療機関の中心的役割を果たすこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

(ア) 平成 30 年 6 月に発生した大阪府北部地震では、地域の医療機関と連携を取り、透析が必要な患者の受入を迅速に行った。また、他病院への患者の紹介も実施した。(H30)

- ・吹田市地域防災計画に規定された当院の主な役割として、情報伝達、患者の受入れ等を取り入れた大規模災害訓練を行った。また、9月の吹田市地域防災総合訓練に参加し、救護所派遣の訓練を行った。その他、豊能地区医療圏の合同訓練に参加することで、広域的な情報収集をすることができた。(R1)
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、2月に ZOOM によるオンラインで行われた豊能二次医療圏大規模災害時医療連携強化プロジェクト研修で EMIS（大阪府救急・災害医療情報システム）の情報伝達、新型コロナウイルス感染症対策下における被災者のトリアージの机上訓練に参加し、災害時における連携体制を確認した。(R2)

(イ) 新病院において、新型インフルエンザ等のパンデミック時に院内を経由せずに院外から受診対応できるように施設の整備を行った。(H30)

- ・新型コロナウイルス感染症に関して、発生早期から大阪府及び吹田保健所と連携・協力し、対応した。(R1)
- ・新型コロナウイルス感染症への対応として、市及び関係機関と連携・協力し、感染流行早期の時点から帰国者・接触者外来を設置するとともに年度を通して専用病棟を設け、入院患者の受入を行うなど、市立病院として役割を果たした。(R2)

2-(5) がん医療

ア 大阪府がん診療拠点病院としてのがん診療体制の整備

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	4	3	—	3

中期目標

大阪府がん診療拠点病院として、集学的治療や地域連携パスを推進すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

(ア) 医師、看護師、作業療法士等がチームとして症例検討会を行い、他科と連携協力し、患者にとって最良な治療方法となるよう集学的治療の推進を図った。また、緩和ケアチームによる介入を行い、精神面等のフォローも積極的に行った。

- ・がん診療地域連携パスについては、胃ESDパスを新規に運用するなど、積極的な運用を行うように努めた。

(イ) 新病院移転により80列と320列のCT、1.5テスラのMRI2台を導入し、より治療の質及び精度を高めることが可能となった。(H30)

- ・令和元年度から常勤放射線治療専門医を配置したことにより、医療機器を有効活用し、放射線治療の質の向上につなげた。(R1)

- ・放射線治療における機器の精度管理を専従とする診療放射線技師の配置により、質の高い放射線治療を効率的に患者へ提供できるよう体制強化を図った。(R2)

(ウ) がんのリハビリテーションの推進を図るとともに緩和ケアチームで引き続き患者の状況に応じた介入を図ることで緩和ケアの充実を図った。

- ・がん相談支援センターの案内ポスターを院内掲示し、ホームページでも周知するとともに、医師、看護師等からがん相談の案内を引き続き行った

【目標指標】

項目	中期計画 目標値	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
がん入院患者件数	2,120件	2,041件	2,236件	2,487件	—
外来化学療法件数	2,650件	2,635件	3,135件	3,322件	—
放射線治療件数	3,800件	531件	5,578件	4,978件	—
がん手術件数	700件	635件	851件	813件	—
がん診療地域連携 パス実施件数	40件	3件	25件	18件	—

【関連指標】

項目	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
がん患者リハビリテーション単位数（※）	3,679	1,066	2,294	—
がん相談件数	155件	584件	772件	—
緩和ケアチーム介入件数	158件	175件	147件	—

イ がん予防の取組

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

本市が実施する各種がん検診に積極的に協力するなど、がん予防医療の取組に努めること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

（ア）市が実施する各種がん検診に協力した。

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により3月は検診ができなかったが前年度実績を上回った。（R1）
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により5月以降のがん検診の実施が難しく、実施件数は減少となった。（R2）

（イ）病院だよりに、平成30年9月1日開催の市民公開講座（乳がんの基礎知識から予防、治療）の内容を掲載した。（H30）

- ・病院だより（No.73）にて、府内医療機関のがん疾患の情報を掲載したホームページ「がん情報提供コーナー」の紹介などを行った。（R1）
- ・広報誌「ともに」（No.10）にて、消化器外科を特集し、消化器のがん情報およびがん検診の啓発などを行うとともにホームページ上で閲覧できるようにした。また、市報すいた（令和3年2月号）にて、当院のがん治療における緩和ケアについて掲載を行った。（R2）

【関連指標】

項目	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
がん検診受診者数	2,942人	3,273人	1,403人	—

2 - (6) リハビリテーション医療

ア 回復期リハビリテーション病棟を活用した在宅復帰への支援

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

新病院における回復期リハビリテーション病棟の設置により、急性期から回復期までの患者の状態像に応じたリハビリテーションを手厚く行い、在宅復帰を支援すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・急性期患者については、引き続き廃用症候群の予防や早期離床を目的としたリハビリテーションを実施し、早期リハビリテーション単位数の増加につながった。回復期患者には、退院後の実生活での動作を想定したリハビリテーションを取り入れることで、自立度及び日常生活機能を改善した状態での在宅復帰に結びつけた。
- ・専任のリハビリテーション科医師を配置し、移転と同時に回復期リハビリテーション病棟を開設した。(H30)
- ・届出要件である新規重症入院患者に対する退院時の改善割合を充足したことにより、回復期リハビリテーション病棟入院料3を取得した。(R1)
- ・回復期リハビリテーション病床においては、365日のリハビリテーションを開始したことにより、5月に回復期リハビリテーション病棟入院料1を取得した。また、セラピスト5名を増員するとともに9月より新たな専任医師を配置したことでリハビリテーション実施体制の強化を図った。(R2)

【目標指標】

項目	中期計画 目標値	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
回復期リハビリテーション病棟 病床利用率	95.0%	35.0%	73.3%	75.1%	—
回復期リハビリテーション病棟 在宅復帰率	80.0%	88.9%	86.9%	86.7%	—

【関連指標】

項目	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
早期リハビリテーション単位数	30,052	41,938	54,646	—
がん患者リハビリテーション単位数（再掲）	3,679	1,066	2,294	—
呼吸器リハビリテーション単位数	6,215	2,515	2,515	—
脳血管疾患等リハビリテーション単位数	17,497	57,011	75,509	—
運動器リハビリテーション単位数	43,147	43,077	50,056	—

イ 高齢化の増加に伴う疾患の増加への対応

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

新病院における回復期リハビリテーション病棟の設置により、急性期から回復期までの患者の状態像に応じたリハビリテーションを手厚く行い、在宅復帰を支援すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・がん患者や呼吸器疾患患者について、早期にリハビリテーションの介入を実施し、患者の状態等を勘案して、最も適切なリハビリテーションを提供することで、患者の自立度向上に取り組んだ。

3 安心安全で患者満足度の高い医療の提供

3- (1) 安心安全な医療の提供

ア 医療の安全管理体制の確保

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

安心安全な医療を提供するため、医療の安全管理を確保する体制を整備すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

（ア）インシデント、アクシデントの事案報告等、発生要因、再発防止策を検討する医療安全管理委員会を毎月開催し、再発防止策を検討し、部長会を通じて職員へ周知を行い、アクシデント件数の減少に努めた。

・全インシデントの内、薬剤に関する案件が一番多く占めていたことから、発生のリスクを低減する対策として、新病院でのシステム更新に伴い、注射認証システム、持参薬システム等の導入や、多職種で立案した業務改善計画に基づく対策（配薬カートの導入、患者支援センターでの薬剤師による入院前支援）を実施することによりアクシデント予防に取り組んだ。（H30）

・組織全体で再発防止に繋げるよう、院内情報システムを活用したレポートシステムを導入した。（R1）

・アクシデント案件減少に向け、アレルギー薬剤投与に関するチェック機能のシステム更新を行った。（R2）

（イ）抗菌薬の適正使用支援の推進を目的として、抗菌薬適正使用支援チームを設置し、対象患者を週1回モニタリングし、状況把握や治療の評価を行い担当医師へフィードバックするなど、適正使用の支援を行った。

・麻疹が確認されたため、院内感染対策委員会において速やかに感染のおそれがある接触者をリストアップし、初期症状が確認された場合の対応を伝え、感染拡大防止に必要な対策を講じた。（H30）

・抗菌薬適正使用支援チームにてラウンドを行い、患者ごとに抗菌薬が適正に使用されているか状況の把握をした。（R1）

・毎週 ICT ラウンド及び抗菌薬適正使用ラウンドを行い、感染症治療、抗菌薬適正使用状況及び感染防止策を評価し、結果のフィードバックを行った。また、発熱外来でのトリアージ等、様々な新型コロナウイルス感染症対策を行い、院内感染の防止に努めた。（R2）

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
医療安全管理委員会開催数	12 回	12 回	12 回	—

イ 医療安全対策の徹底

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

医療事故の予防及び再発防止に取り組むなど、医療安全対策を徹底し、院内感染防止の取組を実施すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第 2 期中期計画）

（ア）病院機能評価において、医療安全対策は概ね適切と評価されたところであるが、病棟薬剤師の配薬に関する積極的な介入に関する指摘については、配薬前に看護師だけでなく薬剤師が監査を実施するよう改善を行った。（H30）

- ・病院機能評価の結果・所見を踏まえ、患者の安全確保に向けたマニュアルを適宜見直し、情報を共有できるよう周知した。また、その内容を病院機能評価の期中確認において報告した。（R1）

病院機能評価の中間報告に対するサーベイヤー（評価調査者）からの意見を受け、院内で発生したインシデント・アクシデントに関し、医療事故防止対策委員会で再発防止のための検討を行い、必要に応じて、改善のための周知を行った。（R2）

（イ）医療の安全管理研修として、全職員を対象に実施するとともに職種別にも実施した。院外においても、医療安全部の職員をはじめ、研修に参加した。院内感染防止対策についても、全職員を対象にした研修と職種別の研修を実施した。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により研修参加回数は減少したが、WEB 配信による研修を積極的に受講し、医療安全の意識向上に努めた。（R2）

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
医療安全関係院外研修参加件数	16 件	20 件	9 件	—

3-(2) チーム医療の充実

ア チーム医療の仕組みを活用した室の高い診療・ケアの提供

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

医療の質と安全性を高めるため、医師、看護師及びコメディカルスタッフなど多職種・多診療科間で編成したチーム医療の更なる充実を図ること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・多職種により構成された様々なチームが連携・協働し、それぞれの専門スキルを活用して診療・ケアにあたり、患者の療養生活のサポートを行った。
- ・認知症ケアチームにおいては、認定看護師が積極的に介入できる体制を図ることで件数の増加につなげた。
- ・医師や看護師、薬剤師、言語聴覚士、管理栄養士・社会福祉士が胃ろう（PEG）の適応を考えるチーム（通称 JIP）で、胃ろうを造るべきかを個々の症例ごとに、退院後の生活状況などを含め総合的に検討し、患者や家族に胃ろうの選択を考える際の支援となる活動を行った。

【関連指標】

項目	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
認知症ケアチーム介入件数	381件	295件	425件	—
栄養サポートチーム介入件数	1,015件	1,266件	1,127件	—

イ チーム医療の質の向上

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

医療の質と安全性を高めるため、医師、看護師及びコメディカルスタッフなど多職種・多診療科間で編成したチーム医療の更なる充実を図ること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・関係職員によるミーティングやラウンド等を通じて、課題の把握及び解決に努め、チーム医療の質の向上を図った。
- ・認知症ケアチームは、各病棟へのラウンドを行い、該当患者の担当看護師と共に認知症状の悪化の予防や、治療・リハビリテーションが円滑に受けられるようカンファレンスを実施した。
- ・栄養サポートチーム（NST）においては、各病棟へのラウンドを行い、個々の症例に関して最適な栄養療法についての検討を行った。

3 - (3) コンプライアンスの徹底

ア 内部統制体制の整備

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	2	3	—	3

中期目標

医療法をはじめとする関係法令を遵守のうえ、行動規範と倫理に基づく適正な病院運営を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・地方独立行政法人法の改正に伴い、業務方法書を改正し内部統制体制に関する基本方針やその推進に関する事項、リスク評価への対応等を定めることにより、体制の整備を図った。(H30)
- ・コンプライアンス委員会でリスク評価への対応方針の決定し、各職員が業務におけるリスクを洗い出し、業務改善に取り組むことで業務の適正化に係る意識の向上を図った。また、令和元年度に新たに契約した市が選任した会計監査人による監査業務（会計実務指導や内部統制等）に係る指摘についても適切に対応を行った。(R1)
- ・令和元年度に確認したリスクへの適切な対応を行うために各職員が業務におけるリスクを再確認し、適宜業務の見直しを行った。また、会計監査人による監査業務（会計実務指導や内部統制等）に係る指摘についても適切に対応を行った。(R2)

イ 職員の意識向上

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	2	3	—	3

中期目標

全ての職員が個人情報保護することの重要性を認識し、その管理を徹底すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・個人情報保護研修「医療機関における個人情報保護対策」を開催し、医師、看護師、コメディカル、事務職など計 261 名が参加した。
- ・個人情報保護推進委員会において、「患者情報の保存・利用に関する要領」を見直し、患者情報利用における病院管理 USB メモリ使用を規定し、情報漏えい防止対策を行った。(H30)
- ・令和元年 8 月に個人情報流出事案が発生した事実を踏まえ、個人情報に対するこれまで以上の意識向上のため、e-ラーニングによる「個人情報・プライバシー」の研修、院内情報システムによる個人情報に関する自己点検及び各部署において個人情報リスク点検を行い、リスクの洗い出しと対策の検討を行った。また、「個人情報の漏えい防止」の研修を 2 回行い、当日参加できなかった者には、院内情報システムで録画視聴できるようにし、今後同様の事案を起こさないよう、意識向上に努めた。(R1)
- ・e-ラーニングによる「個人情報・プライバシー」の研修、院内情報システムによる個人情報に関する自己点検を行った。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により例年行っていた集合研修を中止したが、院内情報システムに研修動画をアップし、個人情報保護に対する意識向上に努めた。(R2)

3-(4) 患者サービスの向上

ア 患者の視点に立ったサービスの提供

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

患者が利用しやすい病院を目指すため、職員の接遇向上、院内の快適性（院内清掃等）向上及び待ち時間の短縮など、患者の視点に立ったサービスの向上に取り組むとともに、その結果を定量的に把握するよう努めること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

（ア）声の箱に寄せられた様々な要望・意見を医療改善委員会で検討し、患者サービスの向上・改善を図った。また、患者満足度を把握するための退院患者アンケートについても継続して実施した。

（イ）接遇向上研修を引き続き実施し、患者対応において常に親切・丁寧な説明を心がけ、患者サービスの向上に努めた。

（ウ）患者利便施設の事業者に寄せられた意見について、担当責任者に伝え改善を要望し、利便性の向上に努めた。

・新病院では、ATMやコピー機等のサービスが提供可能な売店、カフェ、自動販売機、レストランを整備し療養環境の向上に努めた。

・待ち時間を快適に過ごせるよう、各科の診察状況が表示される外来案内表示モニターを外来診察室前以外に7台、レストランに2台設置した。（H30）

（エ）全職員が閲覧できる共有端末で月毎の患者の待ち時間を周知し、待ち時間短縮の意識付けを行った。また、積極的に逆紹介を推進するとともにかかりつけ医からの紹介患者についてはあらかじめ予約を取ってもらうことを推進することで待ち時間の短縮に努めた。

【関連指標】

項目	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
声の箱投書件数	330件	332件	84件	—
患者満足度調査結果	—	—	—	—

イ 患者に寄り添ったサービスの提供

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンの充実など患者に寄り添った良質な医療を提供することにより市民との信頼関係を築き、患者に選ばれる病院を目指すこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・インフォームド・コンセントについては、当院のマニュアルに従い、わかりやすく丁寧な説明を実施した。
- ・他院へのセカンド・オピニオンについては、インフォームド・コンセントの際や院内掲示により案内を行い、患者の希望の際には速やかに対応した。

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
セカンド・オピニオン対応件数	2 件	9 件	3 件	—

ウ 院内ボランティア活動への支援

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

ボランティアの受入れを推進し、病棟など多様な分野へのボランティア活動の拡充を図ること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・新病院では、ボランティア活動支援及び作業スペースとしてボランティア控室を1階に整備した。
- ・病院負担でボランティア保険に加入し、安心して活動が行える環境を整備した。(H30)
- ・病院が引き続きボランティア保険に加入し、安心して活動が行える環境を維持した。また、令和元年11月から新たに1団体のボランティアを受入れた。(R1)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、院内のボランティア活動は自粛していたが、屋上庭園の花の手入れについては新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら実施した。(R2)

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
ボランティア登録人数	57 人	59 人	60 人	—

4 本市の地域包括ケアシステムの構築に貢献する地域完結型医療の体制づくり

4- (1) 地域の医療機関（かかりつけ医等）との機能分担・連携

ア 紹介・逆紹介の徹底

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	4	3	—	3

中期目標

患者の状態像に応じた医療を効果的・効率的に提供するため、地域の医療機関との紹介・逆紹介を徹底すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

（ア）新病院において、紹介患者がスムーズに受付できるように紹介状窓口を1ブースから3ブースに拡充した。

- 急性期を脱した患者については、各診療科と患者支援センターが連携し、早期に逆紹介できるように行った。また、かかりつけ医リーフレット等も活用して逆紹介を推進した。（H30）

- 紹介患者がスムーズに受診できるように、紹介状受付の待ち時間短縮を目的として受け入れ手順の見直しを行った。また、部長級以上の医師が積極的に地域の医療機関訪問を行った。（R1）

- 放射線検査の紹介患者がスムーズに受診できるよう、受付時の紹介状取り込み作業を検査後にすることで待ち時間の短縮を図った。

- コロナ禍においても可能な範囲で開業医を訪問することで連携を図った。

- 逆紹介については、引き続き医師に徹底してもらうために会議の場など様々な機会において働きかけ、特に長期間通院している再診患者への積極的な逆紹介に努めた。（R2）

（イ）当院で治療が終わった患者が切れ目無く地域のかかりつけ医で医療を受けることができるように各診療科と患者支援センターが連携し、かかりつけ医を持っていない患者の相談や対応を行った。（H30）

- 逆紹介を医師に徹底してもらうために会議の場など様々な機会において積極的に指導を行った。また、患者向けにも啓発ポスターを掲示するなど逆紹介を推進した。

- 地域連携パスについては、がん連携パスに加え、新たに大腿骨頸部骨折パスを稼働させることにより運用件数を増加させた。（R1）

・逆紹介の際には大腿骨頸部骨折等の地域連携パスを活用し、引き続き推進することにより地域で切れ目なく医療の提供に努めるとともに逆紹介患者が急変した際にはコロナ禍においても可能な限り受け入れに努めた。(R2)

(ウ) 地域の医療機関と一層の情報共有を図るため、当院のカルテを閲覧するシステムについて、まずは隣接する国立循環器病研究センターとの間で導入に向けた検討を行い、運用を開始した。

【目標指標】及び

項目	中期計画 目標値	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
紹介件数	17,000 件	16,849 件	19,827 件	17,286 件	—
逆紹介件数	11,500 件	11,427 件	13,863 件	12,287 件	—
紹介率	64.0%	61.0%	70.1%	70.7%	—
逆紹介率	84.0%	61.2%	57.7%	65.0%	—
地域連携パス実施件数	100 件	18 件	120 件	126 件	—

【関連指標】

項目	H30 年度実績	R1 年度実績	R2 年度実績	R3 年度実績
登録医数	251 件	284 件	338 件	—

イ かかりつけ医定着に関する啓発

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

日常的な診療や健康管理・健康相談を受けることができるかかりつけ医定着に関する啓発を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第 2 期中期計画）

・かかりつけ医を探しやすいように従来から作成しているかかりつけ医リーフレットに加え、新たに登録医（開業医）マップを作成し外来エリアに掲示した。

・新規で開業したかかりつけ医については、すぐに訪問し情報収集を行い、かかりつけ医リーフレットに追加した。また、2階に設置しているサイネージ（電光掲示板）において、かかりつけ医定着の啓発ポスターを表示するとともに病院だよりでかかりつけ医に係る記事を掲載し、かかりつけ医の役割やその必要性に関する啓発を行った。

4－(2) 在宅医療の充実に向けた支援

ア 退院支援

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

ケアマネジャー、主治医等に退院時カンファレンスへの参加を促すなど、在宅医療に係る関係機関との円滑な連携による退院支援を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

(ア) 地域で行われる在宅医療と緩和ケアの研修会に参加し、在宅療養診療所の医師や訪問看護ステーションの看護師等と情報交換を行い、連携を図った。

また、入院時支援の際に退院困難な患者を把握し、入院早期から入退院支援部門と医療福祉相談部門が連携を図り、退院困難な患者への介入を行った。

(イ) 退院支援の際には、医師が作成する入院診療計画書に基づき、医師、看護師、リハビリスタッフ等、多職種で医療チームで患者の療養方針を検討した。また、患者の意思決定を尊重するよう患者・家族と面談を行い、退院支援を実施した。

・在宅医療の関係機関への連絡を密に行い退院支援がスムーズにいくよう連携を図った。

(ウ) 入院時から介護支援専門員（ケアマネージャ）等と連携を図るとともに、退院前には医師、訪問看護師、介護支援専門員等と在宅医療への移行が円滑に進むようカンファレンスを実施した。また、退院後の患者に関する相談窓口として、介護支援専門員や訪問看護師等からの問い合わせに対応するなどサポートを行った。

【関連指標】

項目	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
退院支援件数	2,309件	2,561件	2,964件	—
医療相談件数	11,230件	11,346件	11,112件	—
介護支援連携件数	137件	148件	86件	—

イ 在宅療養者の急変時の受入れ

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

在宅療養者の病状が急変した際には、関係機関等の求めに応じた一時的な受入れを行うなど、必要な対応を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・在宅医療の後方支援として、在宅療養者が急変した場合、通常時間内では、患者支援センターの病床管理部門と地域医療連携部門が連携し、円滑に受入れを実施した。時間外では救急部による救急応需体制により受入れを実施した。

【関連指標】

項目	H30 年度実績	R1 年度実績	R2 年度実績	R3 年度実績
当日入院件数（紹介）	1,509 件	1,651 件	1,287 件	—

ウ 地域医療ネットワークの連携強化

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

地域医療ネットワークの連携を強化し、切れ目のない医療・介護・福祉サービスが提供できるよう、地域の医療水準の向上に努めること。
--

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

<ul style="list-style-type: none"> ・吹田在宅ケアネットにおいては、歯科医師と管理栄養士から講演を行い、吹田呼吸ケアを考える会においては、当院の看護師等が講演し、在宅医療に携わる多職種との連携を深める会を当院が主体的に開催し、ネットワークの連携強化を図り、地域の医療水準の向上に貢献した。 ・在宅ケアネットや吹田呼吸ケアを考える会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催中止となったが、吹田市在宅医療・介護連携推進協議会に出席するとともに吹田市ケアネット実務者懇話会の WEB 会議に参加することで情報交換により地域のネットワークの強化を図った。(R2)

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
吹田在宅ケアネット開催数	2 回	2 回	0 回	—
吹田呼吸ケアを考える会開催数	1 回	1 回	0 回	

5 健都における総合病院としての役割

5-1 (1) 国立循環器病研究センターとの機能分担・連携

ア 診療における連携

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	4	4	—	4

中期目標

隣接する国立循環器病研究センターとの間において、医療をはじめとする病院としての機能について分担・連携を進め、相乗的な価値向上を図ること。また、この機能分担・連携について市民や地域の医療関係者などの理解が進むよう取り組むこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・各診療科間において、連携及び役割分担等について協議し、整理した。
- ・救急対応協力においては、循環器疾患や脳卒中の疑いがある患者については原則、国立循環器病研究センターで受入れることや、当院の循環器系の救急患者について、同センターの医師が可能な範囲で画像診断のコンサルトを行うなどの連携を図ることを確認した。(H30)
- ・診療科ごとに役割分担を整理し、国立循環器病研究センターからの消化管出血等の当院で対応可能な患者の受入れ、救急対応協力のみならず、同センターへの医師派遣体制を整備した。また、医療機器の相互利用については、ルール策定をするとともに同センターに設置されたPET-CTへの検査依頼を進めた。(R1)
- ・診療科ごとに役割分担を整理し、国立循環器病研究センターからの消化管出血等の当院で対応可能な患者の受入れを行ったほか、救急対応協力のみならず、同センターへの医師派遣を行った。また、同センターのPET-CTや当院の内視鏡機器など医療機器の相互利用を進め、相互の紹介件数の増加につながった。
- ・回復期リハビリテーション病棟において、365日のリハビリテーションを開始したことにより、5月に回復期リハビリテーション病棟入院料1を取得した。また、セラピスト5名を増員するとともに9月より新たな専任医師を配置したことでリハビリテーションが必要な患者の当院への受入体制を確保した。(R2)

【関連指標】

項目	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
国立循環器病研究センターからの紹介件数	243件	571件	760件	—
国立循環器病研究センターへの紹介件数	148件	385件	534件	—

イ その他の連携

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

隣接する国立循環器病研究センターとの間において、医療をはじめとする病院としての機能について分担・連携を進め、相乗的な価値向上を図ること。また、この機能分担・連携について市民や地域の医療関係者などの理解が進むよう取り組むこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・国立循環器病研究センターの看護局主催の学習会に当院の看護師 13 名参加した。
- ・電子カルテの連携は、国立循環器病研究センターとの連携会議などにより、連携する対象、相互に閲覧する診療情報、導入するシステム等を確認し、同センター移転後に試験運用を経て運用開始する準備を進めた。(H30)
- ・相互交流を推進するため、国立循環器病研究センターが開催した看護師の研修会に参加した。
- ・カルテ相互閲覧システムの市民病院側のシステム構築を完了させた。
- ・医療機器の相互利用については、ルール策定をするとともに同センターに設置された PET-CT への検査依頼を進めた。(R1)
- ・両院の医師が患者の治療方針の策定にあたり協議を行うなど連携を図った。
- ・電子カルテ相互閲覧システムについて国立循環器病研究センターと協議を進め、運用を開始した。
- ・同センターの PET-CT や当院の内視鏡機器など医療機器の相互利用を進めた。(R2)

ウ 連携体制の周知

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

隣接する国立循環器病研究センターとの間において、医療をはじめとする病院としての機能について分担・連携を進め、相乗的な価値向上を図ること。また、この機能分担・連携について市民や地域の医療関係者などの理解が進むよう取り組むこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・特定機能病院としての国立循環器病研究センターと総合病院としての市民病院がそれぞれのポテンシャルを発揮し、より良い医療提供ができるよう連携状況をホームページ等で周知を行った。

5－（2）他の健都内事業者等との連携

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

ア 健都2街区高齢者向けウェルネス住宅、健都イノベーションパーク及び駅前複合施設と連携し、それぞれが実施する市民の健康寿命の延伸に寄与する取組を支援すること。
イ 健都レールサイド公園（（仮称）健都ライブラリーを含む。）で取り組まれる事業への支援を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・吹田市主催の「健康」をテーマにしたイベント「すいた健康EXPO」で、新病院についての説明パネルを展示し、来場者への質問に対応するなど、健都のPR活動に協力した。(H30)

・北大阪健康医療都市連絡調整会議に参加し、健都のまちづくりやイベント等について協議した。(R1)

・健都まちづくり連携会議に参加し、健都を構成する産学官民がそれぞれの特色を活かし、共同で事業を行える基盤（共創プラットフォーム）について意見交換を行った。(R2)

5 - (3) 予防医療に関する取組

ア 各種検（健）診の実施

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

各種健（検）診の実施及び健康づくりや介護予防に関する講座の開催など、市民の健康寿命の延伸に寄与する取組を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第 2 期中期計画）

- ・マンモグラフィーによる乳がん健診など、高度検査機器が必要な分野を中心に取り組みを行い、一次検診の機能だけでなく、精密検査とその後の治療にも対応し、早期発見・早期治療に貢献した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に対応するため、令和 2 年 4 月 13 日以降は特定健診を中止せざるを得なくなったこともあり、検診事業は大幅な件数減となった。(R2)

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
国保特定健診件数	591 件	601 件	24 件	—
後期高齢者特定健診件数	236 件	240 件	0 件	—

イ 人間ドックの実施

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	4	3	—	3

中期目標

各種健（検）診の実施及び健康づくりや介護予防に関する講座の開催など、市民の健康寿命の延伸に寄与する取組を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・人間ドック・脳ドックについて、疾病の早期発見のため積極的に実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、必要なスペースの確保が困難となり、およそ8ヶ月間中止したが、速やかな環境整備に努めた結果、12月に再開することができた。(R2)

【目標指標】

項目	中期計画 目標値	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
人間ドック件数	550件	518件	616件	156件	—

ウ 予防接種の実施

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

各種健（検）診の実施及び健康づくりや介護予防に関する講座の開催など、市民の健康寿命の延伸に寄与する取組を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・市の協力医療機関として、主に高齢者や入院中患者を中心に、インフルエンザなどの予防接種を引き続き実施した。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止とその対応に注力するためにインフルエンザワクチンの集団予防接種を中止した。なお、肺炎球菌ワクチンや4種混合ワクチン等、個別接種で行う予防接種については継続して実施した。(R2)

エ 疾病予防に関する講演会等の開催

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

各種健（検）診の実施及び健康づくりや介護予防に関する講座の開催など、市民の健康寿命の延伸に寄与する取組を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・市民公開講座、出張講座を通じて、かかりつけ医を持つことの意義を説明するとともに、疾病予防に関する講演を行った。薬に頼らない、毎日できる簡単な運動等の紹介を講演の中に取り入れた。(H30)
- ・市民公開講座（1回）、出張講座（4回）を行った。出張講座は例年どおり高齢クラブや大学に加え、他福祉施設の専門職を対象に、かかりつけ医を持つことの意義などに関する講演や疾病予防の啓発について開催した。新型コロナウイルス感染症の影響で2月以降の講演会等が中止となった。(R1)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、市民公開講座は開催中止となったが、出張講座をWEB会議システムにて「糖尿病」をテーマとして開催した。地域医療支援病院の承認にあわせて、かかりつけ医を持つことの意義や検診の大切さなどを周知するためにパンフレットを作成し掲示を行った。(R2)

（参照）目標指標及び関連指標一覧 8ページ 関連指標

項目	H30 年度実績	R1 年度実績	R2 年度実績	R3 年度実績
市民公開講座実施回数	2 回	1 回	0 回	—

6 地域医療への貢献

6- (1) 地域の医療従事者への支援

ア 地域の診療所等への支援

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

地域の医療従事者を対象に研修会を開催するなど、地域医療に携わる医療従事者を支援すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第 2 期中期計画）

- ・地域の医療従事者の質の向上を目的として、吹田臨床セミナーや臨床病理検討会（CPC）、在宅地域看護研修などを開催した。吹田臨床セミナーでは、診療科からの演題や接遇、医療安全等をテーマに開催し、臨床病理検討会（CPC）では様々な疾患での病理検討会を実施した。また、在宅地域看護研修では「退院支援」をテーマに開催した
- ・高度検査機器等の共同利用などについても積極的に受入れ、地域の診療所等を支援した。（H30）
- ・地域の医療従事者の質の向上を目的とした臨床セミナーや登録医総会を開催した。登録医総会では、診療科紹介や高度医療機器の案内、またスムーズな連携に繋ぐことができるように登録医との意見交換を行った。
- ・CT等の高度検査機器については、MRI装置の増設や内視鏡室の拡充によって大幅に共同利用件数が上昇した。（R1）
- ・地域の医療従事者の質の向上を目的とした研修については、WEB環境の整備を行い、開催した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、CT等の高度検査機器の共同利用件数及び地域の医療従事者へ向けた研修会の開催数は減少した。（R2）

【目標指標】

項目	中期計画 目標値	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
地域の医療従事者へ向けた研修会開催回数	36 回	27 回	31 回	6 回	—
地域の医療従事者へ向けた研修会外部参加人数	900 人	596 人	543 人	86 人	—
共同利用を行った件数	3,700 件	3,355 件	3,718 件	3,105 件	—

イ 地域の医療水準の向上

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

地域の医療従事者を対象に研修会を開催するなど、地域医療に携わる医療従事者を支援すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・地域の医療従事者を対象とした研修として、北摂化学療法セミナーや吹田在宅ケアネット、吹田呼吸ケアを考える会などを開催した。北摂化学療法セミナーでは、医師だけでなく化学療法に関わる薬剤師や看護師が講演し多職種の医療水準向上に努めた。また、吹田在宅ケアネット（テーマ「最後まで食べるを支える」）においては、歯科医師と管理栄養士から講演を行い、吹田呼吸ケアを考える会（テーマ「訪問看護の立場からの呼吸苦のある患者への工夫や取り組み」）においては、当院の看護師等が講演し、在宅医療に携わる他職種の医療水準の向上に努めた。（H30）

・地域の医療従事者を対象とした研修として、吹田臨床カンファレンス、吹田在宅ケアネット及び吹田呼吸ケアを考える会を開催した。吹田臨床カンファレンスでは、脳神経内科領域のカンファレンスを、吹田在宅ケアネットでは医療介護従事者と在宅ケアやがん患者さんについてのディスカッションを、吹田呼吸ケアを考える会ではCOPDの疾患について研修会を開催し、地域の医療水準の向上に努めた。（R1）

・吹田臨床カンファレンスや吹田在宅ケアネット、吹田呼吸ケアを考える会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催中止となったが、地域の医療従事者が参加できる臨床セミナーをWEB開催した。（R2）

【関連指標】

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
吹田臨床カンファレンス開催回数	0 回	1 回	0 回	—
吹田在宅ケアネット開催回数（再掲）	2 回	2 回	0 回	—
吹田呼吸ケアを考える会開催回数（再掲）	1 回	1 回	0 回	—

6－(2) 福祉保健施策への協力・連携

ア 障がい者（児）歯科診療の実施

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

本市が実施する高齢者や障がい者（児）などへの福祉保健施策の実施に協力し、連携すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第 2 期中期計画）

・特別な配慮が必要であり、一般歯科医院では治療が難しいことから、地域より求められている障がい者（児）の歯科診療について、安心かつ安全な体制のもと実施した。

【関連指標】

項目	H30 年度実績	R1 年度実績	R2 年度実績	R3 年度実績
障がい者歯科患者数	1,682 人	1,599 人	1,486 人	—

イ 小児科診療における協力・連携

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

本市が実施する高齢者や障がい者（児）などへの福祉保健施策の実施に協力し、連携すること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第 2 期中期計画）

・小児科（小児神経専門医）が、毎週 1 回市の施設（わかたけ園）に出向き診察を行った。また、療養相談や関係者会議などに参加するなど、市の実施する療育事業への協力を行った。

(Ⅱ) 第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 PDCA サイクルによる目標管理の徹底

ア 重点方針の共有及び目標達成に向けた取組

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

中期目標・中期計画の達成に向けて、職員がその達成度を確認できるよう、目標の進捗状況や経営に関する情報を的確に周知し、職員が一丸となって経営改善に取り組むこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・中期計画や年度計画、各年度の重点方針を全職員に通知するとともに、診療科別ヒアリングにて取り組むべき方策の確認をした。また、毎月の収支報告、病院の経営分析、計画の進捗状況管理を経営戦略会議で行った。
- ・診療科別ヒアリングを行い、各科及び各部署で目標を設定するとともに、当年度の病院の重点方針を達成するための方策や新病院移転に関連する事項について協議した。
(H30)
- ・診療科別ヒアリングを行い、各科及び各部署で目標を設定するとともに、国立循環器病研究センターとの連携体制の構築を含む重点方針の達成のための方策について検討を行った。(R1)
- ・診療科別ヒアリングについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各診療科の病床利用率の目標設定が難しい状況であったため、診療単価向上のための診療科別ヒアリングを実施し、抽出された課題解決に取り組んだ。(R2)

イ 目標管理の徹底

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

中期目標・中期計画の達成に向けて、職員がその達成度を確認できるよう、目標の進捗状況や経営に関する情報を的確に周知し、職員が一丸となって経営改善に取り組むこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・各診療科が立てた目標値の進捗状況を経営戦略会議で確認するだけでなく、新たに部長会でも報告し、目標達成に努めた。(H30)
- ・各診療科が立てた年度目標についてはその進捗管理のため、経営戦略会議で状況報告を行うとともに、部長会においても報告し、目標達成に努めた。また、目標が達成できていない診療科については、個別に目標達成に向けた今後の方策や課題のヒアリングを行い、改善に努めた。(R1)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある状況においても、診療科別ヒアリングにて平均在院日数の短縮等、収益改善のための方策を確認し、経営戦略会議等で進捗管理を行った。また、診療科別ヒアリング時に確認された複数診療科または多職種にまたがるような案件については、担当責任者として副院長を設定し、各種院内委員会等において検討し課題の解決を図った。(R2)

ウ 経営改善に向けた取組

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

中期目標・中期計画の達成に向けて、職員がその達成度を確認できるよう、目標の進捗状況や経営に関する情報を的確に周知し、職員が一丸となって経営改善に取り組むこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・毎月の業務状況や年度計画の進捗状況、収支状況、院長通知を電子カルテ端末上で全職員が容易に閲覧できるようにしているほか、入院患者数などの状況を電子カルテトップページ上で毎日更新し、引き続き職員の経営参画意識の向上に努めた。

・全職員からコスト削減案を募った。全ての提案について、事務局を中心に各部署で内容を検討し、実施可否や実施方法、進捗状況を職員に周知し、費用削減と職員のコスト意識啓発に努めた。(H30)

全職員を対象に当院の財務状況が把握できるように会計研修を実施した。また、受講できなかった職員については、後日、動画で受講できるようにするとともに習熟度チェックも行った。(R1)

理事長自らが幹部職員に対して経営セミナーを実施し、経営意識の醸成に努めた。また、病院長のビデオメッセージにより経営改善の必要性について全職員に周知した。(R2)

2 - (1) 医療職の人材確保・養成

ア 働きやすい職場環境づくり

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

働きやすい環境の整備を図ることなどにより医療職の人材確保に努めること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

（ア）平成 30 年 4 月より院内保育所において一時保育を開始し、延べ 66 回の利用（登録園児 17 名）があり、子育て中の職員が働きやすい環境を整備した。（H30）

- ・院内保育所の保育時間を 20 時まで延長し、19 時から 20 時の時間帯で、延べ 34 人（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月実績）の延長保育利用があった。時間外でも安心して子供を預けることができ、子供のいる職員に対して働きやすい環境作りを行った。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大への対応の中であっても、各職員の年次休暇取得状況の見える化により取得率向上に繋げるなど働きやすい環境整備に努めた。（R2）

（イ）多様な勤務形態に対応できるように他病院の勤務体制状況を調査し、正規職員の夜勤専従制度導入に向けた運用を検討することとした。（H30）

- ・働きやすい職場環境づくりを整備し、仕事と生活の両立を実現することで働き続けられる職場の検討を行っているワークライフバランス委員会において、夜勤専従での働き方を希望する職員を選定し試行を開始した。（R1）

- ・正規職員の夜勤専従勤務を希望のあった 5 名に対して試行実施し、ワークライフバランス委員会での評価を踏まえ、メンタルヘルスサポート体制の整備を行い、令和 2 年 11 月に本格実施した。（R2）

【目標指標】

項目	中期計画 目標値	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
助産師看護師離職率	全国平均以下	6.4%	3.7%	3.0%	—

イ 医療従事者の質の向上と研修・指導体制の充実

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

医師をはじめとした医療従事者の知識と技術等の質の向上に努め、研修や指導体制の充実を図ること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

（ア）医療従事者等に対して、認定医等の資格取得や研修参加に係る費用への支援を行うことで医療の質の向上を図った。

（イ）臨床研修管理委員会において、初期研修中により多くの症例を体験できるよう、1年目から当直業務に従事するよう運用を改善した。（H30）

- 臨床研修プログラムにおいて、診療科をローテートする毎に各指導医から研修医に対する評価を行い、半年ごとにプログラム責任者等からフィードバックを行うよう変更したことで、研修が不足している部分や研修医の意見を把握し、研修の質の向上を図った。（R1）
- 医師法改正に対応した新臨床研修プログラムを適切に実施するとともに、委員会を積極的に開催し、研修内容や運用の改善を行った。また、研修医の部署を病院長直轄で設置し、研修内容や教育環境を一元的に調整できる体制を整備し、医師だけでなく他の医療職と連携した研修を行った。（R2）

【関連指標】

項目	H30 年度実績	R1 年度実績	R2 年度実績	R3 年度実績
認定看護師数	12 人	12 人	12 人	—
専門看護師数	2 人	2 人	1 人	—
認定等資格更新支援件数	103 件	99 件	91 件	—
看護学生実習受入数	142 人	371 人	68 人	—
医学生実習受入数	31 人	27 人	12 人	—

2 - (2) 人事給与制度

ア 職員給与の設定・運用

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

職員の給与は、地方独立行政法人法に基づき、当該職員の勤務成績や法人の業務実績などを考慮したものとする。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・ 厳しい経営状況であることから、平成 30 年人事院勧告に基づく給与改定は実施しなかった。(H30)
- ・ 新病院移転に伴い厳しい経営状況が続いているため、令和元年人事院勧告に基づき吹田市が実施した給与改定を実施しなかった。(R1)
- ・ 令和 2 年の人事院勧告は期末手当の支給月数を引き下げる内容であったが、当院の給与及び賞与の水準は人事院勧告を下回っていること、また、コロナ禍にあっても職員のモチベーションを低下させず、公立病院としての役割を果たすために、現状の水準を維持した。(R2)

イ 人事評価制度の運用

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

職員の業績や能力を正当に評価し、職員の意欲を引き出す人事給与制度の運用を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・人事評価制度の構築に向けたコンサルティング業務の委託業者選定するため、仕様書の作成に着手した。(H30)
- ・医師、看護師、医療技術員、事務職の4つの検討部会を立ち上げ、部門毎に人事評価制度に対する期待や懸念、評価項目等についてのヒアリングを丁寧に行い、部会の意見を取り入れることで、納得性の高い人事評価制度の構築を進めた。(R1)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大への対応に伴う業務の増大や診療制限、専用病棟設置に伴う病床の変動などの理由により、診療科による目標設定及び評価が困難であったことから、試行実施を凍結した。(R2)

(Ⅲ) 第4 財務内容の改善に関する事項

1 経営基盤の確立

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	2	3	3	—	3

中期目標

政策医療をはじめとした市立病院の役割を将来にわたって継続的に担えるようにするためには、安定した経営基盤を確立することが不可欠であることから、市立病院の機能確保・向上に努めつつ、あらゆる経営改善に取り組むこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・経営感覚に富む人材育成のため、新規採用職員に対し会計制度等についての研修を開催し、全職員に対しては経営状況についての研修を開催し、経営に関する知識の向上を図った。
- ・病院業務に精通した職員の養成のため、職員体制計画のもと派遣職員をプロパー職員に置き換え、ジョブローテーションを実施した。
- ・新たな施設基準の獲得や平均在院日数の短縮等の経営改善に向けた取組を実施したことで経常収支比率の改善につながった。
- ・市からの運営費負担金を受け、救急医療や障がい歯科診療等の公立病院として必要とされる医療サービスを適切に実施した。

【目標指標】

項目	中期計画 目標値	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
経常収支比率	98.3%	80.5%	92.5%	102.5%	—
医業収支比率	90.6%	83.7%	89.3%	88.1%	—

2 収益の確保と費用の節減

2- (1) 収益の確保

ア 収益の確保

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	2	3	4	—	3

中期目標

診療報酬改定及び関係法令改正等に対して迅速に対応するなど収益の確保に努めること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・新病院において、救急科及び救急専用病床を設置し、二次救急医療機関としての救急応需体制を確保した。また紹介状窓口を拡充し、地域の医療機関からの円滑な患者受け入れ体制を整えた。
- ・平成30年度診療報酬改定においては、重症度、医療・看護必要度の判定基準見直しに迅速に対応し、急性期一般入院料1の届出を行った。また、人員配置などの要件整備を計画的に実施し、新病院の患者支援センターで入院予定患者に対して行なわれる、入院中の看護や栄養管理等に係る療養支援計画の立案などの支援業務に対する加算である「入院時支援加算」などの届出をおこない、収益の確保を図った。(H30)
- ・看護師の夜間勤務について、配置人員を見直すことで「看護職員夜間12対1配置加算1」の施設基準の届出を行った。また、看護補助者の夜勤体制についても雇用形態の見直しを行い「急性期看護補助体制加算 夜間100対1急性期看護補助体制加算」及び「夜間看護体制加算」の届出を行い、収益の確保を図った。(R1)
- ・地域のかかりつけ医等からのスムーズな紹介患者の受け入れを行うために疾患ごとに受け入れ判断を行う医師を設定するとともに担当医がマンパワー不足で対応できない場合でも救急外来で対応できるように運用変更した。
- ・令和2年度の診療報酬改定に迅速かつ的確に対応するとともに、新たな施設基準の取得を行い、大幅な入院診療単価の上昇につなげた。(R2)

【目標指標】

項目	中期計画 目標値	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
病床利用率	90.0%	77.5%	88.3%	78.3%	—
入院患者数（1日当たり）	387.7人	334.0人	380.5人	337.5人	—
外来患者数（1日当たり）	1000.0人	900.9人	902.7人	833.9人	—
入院診療単価	54,170円	54,718円	57,733円	64,389円	—
外来診療単価	16,061円	15,174円	17,448円	18,873円	—
新入院患者数	9,435人	9,099人	10,460人	9,393人	—

イ 未収金の発生予防・早期回収

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

未収金の発生予防・早期回収に向けて対策を講ずること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・『医業未収金回収管理マニュアル』の未収金発生防止策に基づき、患者負担額が大きい入院患者に対し、限度額適用認定証の利用を奨めることにより、未収金の発生予防及び金額の抑制に努めた。
- ・救急等で現金がない場合にも対応できるように、すべての自動精算機でクレジットカードを使用できるようにしている。
- ・『医業未収金回収管理マニュアル』に基づき督促等を実施するなど早期回収に努めた。

2 - (2) 費用の節減

ア 人件費・経費の適正化

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	2	3	3	—	3

中期目標

人件費・経費などの適正化を図ること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

(ア) 収益を考慮した適切な人員配置について検討するとともに、新たな業務に対応し、採用計画の見直しを行った。

- ・特定の職員に業務が集中していないか所属長に確認し、配慮するよう周知するなどの取り組みを実施した。
- ・全部署に対して令和元年度比較で残業時間1割削減するように通知し、達成できていない部署に対してヒアリングを行うことで残業時間削減の意識付けを行った。(R2)

(イ) 消耗品請求時には詳細な購入理由及び用途の記載を求めることで過剰発注の抑制を実施し、同等品調査や価格交渉等を引き続き実施することで経費節減に努めた。

- ・コスト削減に向けた取り組み（コストチャレンジ）の一環として、ペーパータオルやガーゼ、手袋等の医療用消耗品やコピー用紙等の節減、節電・節水の徹底等について全職員に周知を行い、コスト意識の向上を図った。
- ・照明及び空調の稼働時間について、集中管理を実施し、光熱費の削減に努めた。(H30)
- ・光熱費の削減について、節電・節水等の張り紙を院内に貼って職員意識の啓発に努めた。また、平成30年度に実施したコストチャレンジの結果を全職員に通知し、今後、実績値を下回ることを目標に掲げて取り組むこととした。(R1)
- ・消耗品の経費削減のため、中古品の在庫状況をまとめた「総務室在庫物品一覧表」を作成し、物品を新規購入するのではなく中古品を使用すること等の取り組みを進めた。(R2)

【目標指標】

項目	中期計画 目標値	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
給与費比率	54.2%	64.8%	56.9%	58.9%	—
経費比率	14.0%	17.8%	14.4%	15.8%	—
時間外労働時間数	14 時間/月	18 時間/月	16 時間/月	13 時間/月	—

イ 材料費の適正化

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	2	3	3	—	3

中期目標

医薬品の在庫管理の適正化や後発医薬品の積極的な採用促進などにより材料費の適正化を図ること。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第 2 期中期計画）

- ・全国自治体病院協議会の医薬品ベンチマークシステムに基づく価格交渉の結果、全国平均を上回る成果をあげることができた。
- ・医薬品について、後発医薬品 35 品目を採用したことにより、採用率は数量シェアベースで 87.1%まで引き上げることができた。
- ・医療材料について、材料委員会を年間 7 回開催し、新規採用物品の是非や同種同効品の集約、不動商品の採用中止について検討および実施し、在庫管理の適正化を図った。
(H30)
- ・医薬品について、28 品目の後発医薬品を新たに採用したことによって、数量シェアベースにおける採用率を 88.7%まで引き上げることができた。
- ・医療材料について、安価な商品への切替えを 47 品目実施し、費用の削減に努めた。
(R1)
- ・医薬品について、14 品目の後発医薬品を新たに採用したことによって、数量シェアベースにおける採用率を 89.8%まで引き上げることができた。
- ・医療材料について、採用品の価格交渉及び安価な商品への切替えを実施し、費用の削減に努めた。(R2)

（参照）目標指標及び関連指標一覧 11 ページ 目標指標及び関連指標

項目	中期計画目標値	H30 年度実績	R1 年度実績	R2 年度実績	R3 年度実績
材料費比率	28.0%	29.8%	28.8%	27.2%	—

項目	H30 年度実績	R1 年度実績	R2 年度実績	R3 年度実績
後発医薬品数量シェア	87.1%	88.7%	89.8%	—

(IV) 第5 その他業務運営に関する重要事項

1 情報の提供

ア 特色ある診療内容の周知

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

病院だよりやホームページ等により、受診内容や医療情報等の情報発信を積極的に行うこと。
また、法人の経営状況について市民の理解を深められるよう、情報提供を適切に行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・新病院の機能について、市民病院だより、広報誌「ともに」において回復期リハビリ病棟や患者支援センター、手術支援ロボットダヴィンチの特集を行った。(H30)
- ・市民病院だより、広報誌「ともに」での情報発信に加え、「産婦人科」、「脂肪肝」、「ロボット支援手術」、「回復期リハビリテーション」について、それぞれ動画を作成し、外来待合やホームページで閲覧できるようにした。(R1)
- ・病院だより、広報誌「ともに」での情報発信に加え、脂肪肝外来に係わる情報を新聞、週刊誌に掲載した。また、市報にて緩和ケアについての特集記事を掲載した。
- ・「脳神経内科」、「消化器内科」、「看護局」についての動画をホームページに掲載し、当院の特色ある診療内容を周知した。(R2)

【関連指標】

項目	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
病院だより発行回数	4回	4回	4回	—
広報誌「ともに」発行回数	2回	2回	1回	—

イ 市民や患者に対する啓発・情報発信

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	4	4	3	—	4

中期目標

病院だよりやホームページ等により、受診内容や医療情報等の情報発信を積極的に行うこと。
また、法人の経営状況について市民の理解を深められるよう、情報提供を適切に行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・ホームページのリニューアルに伴い、スマートフォンやタブレット端末に対応したページレイアウトを採用し、より見やすいように変更した。また、更新時はCMS(コンテンツ管理システム)を用いて、各職場の職員が素早く、容易にページを更新できるようにした。(H30)
- ・ホームページにおいて、産婦人科（ベビー室）ならびに内視鏡センターの新たなコンテンツとして、患者（妊婦を含む）がスマートフォン等を用いて入院や検査の説明等を閲覧できるようにした。また、看護局ページのリニューアルを行い、看護師や各部署（病棟）の雰囲気や伝わるような情報発信を行った。(R1)
- ・「脳神経内科」、「消化器内科」について、それぞれ動画を作成し、検査や治療の流れを2階総合受付前サイネージ（電光掲示板）やホームページで視聴できるようにした。
- ・新型コロナウイルス感染症に対する当院の取組みについて、パンフレットを作成するとともにホームページに掲載し、市民や患者に対して適切な利用の啓発に努めた。
- ・職員に対してはホームページの検索ワードからわかるニーズと関心を職員へフィードバックするとともに、閲覧者が興味をもった内容が検索しやすいようなページ作成に努め、コンテンツの充実を図った。(R2)

(参照) 目標指標及び関連指標一覧 11 ページ 関連指標

項目	H30 年度 実績	R1 年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績
ホームページへのアクセス数	1,694,230 件	1,680,798 件	1,488,283 件	—

ウ 市民公開講座等の積極的な開催

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	4	4	3	—	4

中期目標

<p>病院だよりやホームページ等により、受診内容や医療情報等の情報発信を積極的に行うこと。 また、法人の経営状況について市民の理解を深められるよう、情報提供を適切に行うこと。</p>

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

<ul style="list-style-type: none"> ・市民公開講座2回、出張講座6回を行った。また、ケーブルテレビや市のイベントにおいて、積極的に新病院における診療等の情報を提供した。(H30) ・新型コロナウイルス感染症の影響で回数は減ったものの、市民公開講座(1回)、出張講座(4回)を行った。なお、入院患者への癒やしの提供として、博物館展示の生中継および美術展出張展示を行ったほか、院内コンサート(2回)を開催した。(R1) ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、市民公開講座は開催中止となったが、出張講座はWEB会議システムにて「糖尿病」をテーマとして開催した。(R2)
--

【関連指標】

項目	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績
市民公開講座開催回数(再掲)	2回	1回	0回	—

エ 法人の経営状況の公表

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

病院だよりやホームページ等により、受診内容や医療情報等の情報発信を積極的に行うこと。
また、法人の経営状況について市民の理解を深められるよう、情報提供を適切に行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

・法人の経営状況について市民の理解を得られるよう、財務諸表に加え、その用語説明や経営状況概要についてまとめた資料、過去の経営指標の推移などをホームページで公表している。

2 環境に配慮した病院運営

ア 環境負荷の軽減・エネルギー消費量の抑制

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

省エネルギー・省資源の推進などに取り組み、環境負荷を抑え、環境に配慮した病院運営を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・新病院の設備として、太陽光発電、井水利用、BEMS（ビルエネルギー管理システム）等の各設備を計画通り、設置した。それに伴い、太陽光発電や井水利用により、電気、水道のエネルギー消費量を抑制しており、環境負荷の軽減がなされている。なお、新病院については「CASBEE」（建築環境総合性能評価システム）において、評価結果「Sランク（最上位）」を取得した。BEMS（ビルエネルギー管理システム）については平成31年度の各消費量を基準に運用し、活用していく。（H30）
- ・旧病院と比較して、免震層に取り込んだ外気をクール・ヒートレンジ（地中熱）、井水コイル（井水熱）を利用することにより空調機の電気・ガス消費量の低減、トイレ排水、植木散水などの雑用水に井水を利用することで上水道消費量の低減などで大幅なエネルギー消費量を抑制することができた。（削減割合（年間比較）電気→18.5%、ガス→17.7%、上下水道→41.8%）（R1）
- ・引き続きビルエネルギー管理システム（BEMS）によって蓄積されたデータを基にエネルギーの最適化に努めたが、令和元年度と比較して使用量は電気100.9%、ガス120.3%、上下水道は98.5%となった。この内ガスが20.3%の増と変動が大きいが、新型コロナウイルス感染症対策により24時間換気の実施などが影響し消費量が増加した。（R2）

【関連指標】

項目	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	R3年度実績
電気使用量	6,942,632Kwh	5,657,852Kwh	5,708,012Kwh	—
ガス使用量	729,048 m ³	600,107 m ³	721,722 m ³	—
水道使用量	184,400 m ³	107,292 m ³	105,664 m ³	

イ 環境配慮に対する職員意識の普及啓発

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	終了時見込
小項目 評価結果	3	3	3	—	3

中期目標

省エネルギー・省資源の推進などに取り組み、環境負荷を抑え、環境に配慮した病院運営を行うこと。

法人実績（参照：地方独立行政法人市立吹田市民病院 第2期中期計画）

- ・年間を通じて、職員への節電、節水の注意喚起を行った。
- ・廃棄物削減のための啓発は普段から実施しているが、新病院移転時は大量の廃棄物が発生することが想定されたため、使用可能な物品はできる限り旧病院のものを使用するように周知し、廃棄物の削減に努めた。(H30)
- ・節電・節水等の張り紙を院内に貼って職員意識の啓発に努めた。また、平成 30 年度に実施したコストチャレンジの結果を全職員に通知し、今後、実績値を下回ることを目標に掲げて取り組むこととした。(R1)
- ・節電・節水等の啓発ポスターを引き続き院内に掲示し、職員意識の啓発に努めた。
- ・警備防災の夜間院内巡回時に電灯・エアコン等の消し忘れが確認された場合には、当該部署に対して注意喚起を行い職員意識の普及啓発を図った。(R2)